

教育長賞



金子 佳純 (かねこ かすみ) 散田小3年生

作品名：「ココロ屋」を読んで

図 書：ココロ屋

さいしょに「ココロ屋」という題名を見た時、心は目に見えないしさわれないからお店で売ることにはできないのにふしぎだなと思いました。「ココロ屋」が何かを知りたくてわたしは本を読んでみることにしました。

らんぼうでおこりっぼいひろきくんは、友だちとけんかして先生におこられます。にげだしたひろきくんの前に「ココロ屋」というふしぎなお店があらわれます。店の主人のウツロイはかせは、ココロのけんきゅうをしていて、色いろなココロを作っています。ひろきくんは、はかせに自分の心を「やさしいココロ」や「すなおなココロ」や「あたたかいココロ」にとりかえてもらうのですがどのココロもうまくいきませんでした。

たとえば「やさしいココロ」だけでは友だちに親切にしすぎてやりたくない事にいやと言うことができなくて自分がつらくなってしまいました。

さいごにひろきくんは元の自分の心にもどしてもらいました。自分の心は作られたココロとちがって、色いろなココロが少しずつ入っていてココロどうしがバランスをとりながら成長していく事が分かったからです。

わたしは、やさしい心もすなおな心もよい心で大事だけれど、いやな事にいやと言える強い心も大事だし、のんびりした心やどんかんな心も大事なんだと思いました。

それから、色いろな心があればほかの人の色いろな気持ちが分かるので、これから自分の中の「ココロ」のしゅるいをどんどんふやしていきたいなと思いました。

そして前に図かんで見たようなきれいな色がまじったオパールみたいなココロになれたらすてきだなと思います。